

巻 頭 言

野口隆先生は本年3月に本学を退任された。先生は2005年に地域経済論、都市経済論担当の経済学部教授として本学に着任し、さらに2007年に誕生したビジネス学部の初代学部長として本学の発展のために寄与されてこられた。

ここにささやかながら『社会科学雑誌』記念号を編んで感謝の意を表したい。

野口先生は1966年京都大学経済学部卒業後、大手電機メーカー、流通業等を経て、1983年に独立系シンクタンク（株）関西総合研究所を共同設立、同社代表取締役役に就任された。このシンクタンク時代に関西各地の実態調査に基づいた地域産業振興プラン、商店街活性化、大都市圏政策など数多くの提言をされている。そのうちの一つ、国土庁大都市圏整備局「京阪神プロジェクト推進調査」（1989～1991年）では「世界都市関西」というコンセプトを関西で初めて提起されている。また大学で長年教鞭をとって観光振興や地域問題などの研究に取り組まれるとともに、大阪都市経済調査会、奈良のむらづくり協議会、地域づくり支援機構などの社会活動に積極的に関わってこられた。

こうした多彩かつ豊富な経験から、先生は学生が体験を通じて学ぶこと、地域振興や地域活性化に取り組む人々との交流を通じて学ぶことの重要性や意義を早くから認識されていた。学外でも高く評価されている本学独自のカリキュラムとしてプロジェクト演習がある。これは、学生が学んだ知識を社会実践に活用することによって実践力や応用力を鍛え、自主的・主体的に学習する姿勢や問題解決能力を身につけるための体験型の演習科目であるが、野口先生はビジネス学部設立に際してこのプロジェクト演習を新たに導入しカリキュラムの中核に据えたのであった。そして先生ご自身

も率先して担当された。

また、先生は早くも2006年に奈良県、地元町との共催で奈良の観光をテーマとするシンポジウムを本学で開催された。このシンポジウムがその後のビジネス学部主催シンポジウム、さらには奈良産業大学公開シンポジウムへと継承・発展していくこととなる。野口先生はいずれのシンポジウムにも主導的役割を演じられ、社会への発信の場としての本学の地位を確立してくださった。

さらにキャンパス内では学生と語らう先生のお姿をよく拝見した。また、先生は運動クラブの試合や大会には必ずといってよいほど応援に駆け付けておられたことはよく知られている。先生はまさに本学の学生とともに歩んでこられたのであった。

本学の教育の発展のためにご尽力を賜ったことに改めて感謝申し上げます。先生は本学を退任されたが、幸いにも特別教授として今なお教鞭をとってくださっている。これはありがたいことである。これからもどうかご自愛いただいて、本学の前途をご鞭撻、ご指導くださいますようお願いする次第です。

奈良産業大学社会科学学会会長 河 合 和 男